



クモの巣がある教会


 やまもと まこと
 山元 眞 神父

教会の入口にはクモの巣が張り巡らされているようだ。

そのクモの巣を取り除くのは容易ではない。だから、そのまゝにして、よけて通る？ 教会は、いろんな線によって線引きされているように見える。例えば……ミサによく来る人、来ない人。熱心な？ 人、そうではない？ 人。幼児洗礼の人、成人洗礼の人。家族が皆信者の人、そうでない人。代々信者の人、最近洗礼を受けた人。家族皆そろってミサに来れる人、そうでない人。障がいを持っている人、そうでないように見える人。教会のいろんな活動に参加している人、「何もしない」人。その小教区に所属している人、そう

でない人。「うちの教会」の人。「よその教会」の人。信者の人「まだ」信者でない人。教会維持費をきちんと納めている人

あまり納めてない人、ぜんぜん納めていない人。……まだまだいろんな線引きの「線」がありそれが張り巡らされてクモの巣のようになっていく。

それがどうした？ というかもしれない。でも、イエスが示した教会の姿を見る時、このような線が邪魔に感じる。なぜなら、イエスが示した教会には一切の線引きがないのだから。その教会の入口はすっきりして、だれでも、そのまま入ることができるものだから。イエスの教会にはだれでも、どんな人

でも等しく呼ばれているのだから。

クモの巣は見方によれば美しくも見えて感動することもある。それと同じように、教会がさまざまな線引きによって「区分け」されていることが、たまらなく気持ちよく感じる方もおられるかもしれない。でも、そのクモの巣の主（ヌシ）はどんなクモなのだろうか……。教会の主（シュ）はクモの巣を作るような方ではない。教会には「線」も「クモの糸」も存在しない。「壁」にたとえたとするのなら、キリストはあらゆる「壁」を打ち砕いたといえる。教会には「壁」もない。

引用が長くなるが、聖パウロ

の言葉を味わうとそのことがよく分かる気がする。

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。キリストはおいでになり、遠く離れているあなたに、また、近くにいらした人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。それで、このキリストによって、わたしたち

両方の者が一つの霊に結ばれて御父に近づくことができるのです。従って、あなたがたはもはや外国人でも寄留者でもなく聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。」(『エフェソの信徒への手紙』第二章14節〜20節)

この手紙を読むとうれしくなる。神の前では何も隔てるものがない、と言うのだから。キリストは壁を取り壊し、一つの霊によって皆を一つにしてくださいと言うのだから。教会の主(ヌシ)は主(シユ)キリストで、彼はどんな線引きもしないと言うのだから。このメッセーヂを聞くとうれしくてたまらなくなる。わたしたちは神の家族と呼ばれるのだから。

ある小教区に所属する人が別小教区(教会)に行くと、「この教会ですか」と聞かれたりする。どこの教会? 「キリストの教会です!」と答えたらいいと思ったりする。このように「うちの教会」、「よその教会」という線引きもある。教会と教会の間に「教会線」という境界線を引く。狭い教区の中で、狭い日本で、狭い? 地球で……。国と国の境界線を越えて世界は一つ、というボーダレスの時代に、教会はまだ「どこそこの教会」という「教会線」にこだわっている。

ボーダレスやバリアフリーという最近の発想は、イエスがすでに確立していた。イエス・キリストは神と人の間、人と人の間のあらゆる壁を壊し、神と人と人を一つに結んでくださった。教会はそのような「場」であるはず。そこにはあらゆる差別はない。ああ、それなのに……教会にはあらゆる差別がクモの巣のように張り巡らされている。人が作ったクモの巣……。それをキリストはきれいに取り払っ

たのに。人はクモの巣がないと落ち着かない。何もない、きれいな、すっきりとした、そのような空間に我慢することができないようだ。だから、キリストがクモの巣を取り払っても取り払っても、人はまた新しいクモの巣を作ってしまう。

クモの巣があることを知らないで教会に入ろうとすると、みごとにクモの巣にかかってしまう。それはとても気持ちの悪いもので、一度クモの巣にかかる二度とそこを通ろうとは思わない。

最近見たクモの巣。教会維持費の未払い期間によって、教会の葬儀献金(費用)の額が決まる。一年以上の未納期間から十年以上の未納期間が四段階に分けられ、五万円ずつ上乗せされていく。最大二十万円まで。このクモの巣にかかった人が、またその教会に来るだろうか。

復活祭の前の大掃除では、ぜひクモの巣を取り払いましょう。十字架上のイエスからは、クモの糸ではなく、愛の光線だけが放たれている。

マザー・テレサの思い

女子パウロ会 編

今年9月5日婦天10周年を迎えるマザーの、愛にあふれる短い言葉と笑顔が、日頃見過ごしがちな大切なものに気づくようになりますように。

A6判・32頁・735円(税込)



世界を愛で満たすために

ヨハネ・パウロ二世 100の言葉

里野泰昭 訳

疲れを知らぬ平和への呼びかけ、どんな時にも対話による解決に根気強く取り組む姿は、この時代を生きる希望・勇気だった。説教・書簡から選ばれた貴重な言葉集。

B6上製・112頁・1,260円(税込)



女子パウロ会

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42
FAX03-3479-3944 <http://www.pauline.or.jp/shop>